



# みずどう

確かな学力、豊かな心、健やかな身体のバランスのとれた子どもの育成をめざす

令和6年7月号  
尼崎市立水堂小学校  
尼崎市立水堂町1丁目32-8  
TEL(06)6437-3804  
<http://www.ama-net.ed.jp/school/E30/index.htm>

## 時を守り

いよいよ1学期、最後の月となりました。今年は例年より遅い梅雨入りとなりました。梅雨入り前から真夏日となる日もあり、暑い日が続いています。梅雨が明け、夏本番を迎えますが、今年は酷暑でないことを願います。

6月はたくさんの学校行事がありました。

6月6日～7日には6年生が修学旅行に行きました。今年度の行先は、愛知県のリトルワールド、犬山城、三重県のナガシマスパークランドでした。リトルワールドはいろいろな国の住居や食べ物、衣装を楽しむことができます。6年生は学校で話し合って決めた国にグループごとで見学に行っていました。周遊路に沿って見学するのですが、1周、2.5kmもあります。友だちと一緒に長い距離も苦にならないと子どもたちの顔から感じられました。楽しむ以外にも集団生活で決まりを守ることもしっかりとできていました。

6月17日～21日の4泊5日で5年生は自然学校に行ってきました。行先は毎年変わらず、尼崎市立美方高原自然の家、とちのき村です。自然学校は兵庫県が進めている体験活動です。「自立心」や「豊かな情操」の育成を目的としています。尼崎での生活では味わうことのできない非日常体験は、子どもたちにとって思い出深いものとなっていると思います。自然は決して人に優しくありません。そんな状況でも試行錯誤しながら活動に取り組むことは予測困難なこれからの社会を生きていくうえで必要になる力です。

さて、本校のめざす子ども像に「時を守り」とあります。修学旅行や自然学校でも時間を守ることは大切だと改めて感じました。今年度の修学旅行、ほんのわずかなガシマを出るのが遅れていけば、渋滞のため、学校に帰る時間が大幅に遅れることとなっていました。6年生がきちんと集合時間を守り、時間通りにガシマを出発できたおかげで、楽しい修学旅行として終えることができました。自然学校では、なぜ5分前に行動するのかについて学びました。早めに行動することで、忘れ物や活動の確認ができ、時間通りに楽しい活動に取り組むことができます。時間を守ることは、自分にとってプラスのことを増やすためなんです。7月の終わりから夏休みになります。時間を守って楽しいことがたくさんある夏休みにしてほしいと思います。ご家庭でも夏休みの過ごし方について是非お子様と話し合ってくださいますようお願いいたします。

## 【7月の行事予定】



日	曜日	項 目
1	月	代休日
2	火	月曜校時、朝会、委員会活動 ノート検定週間
3	水	
4	木	
5	金	計算検定、定時退勤日
6	土	
7	日	
8	月	クラブ活動
9	火	個人懇談
10	水	個人懇談
11	木	個人懇談
12	金	個人懇談、定時退勤日
13	土	
14	日	
15	月	海の日

16	火	給食終了
17	水	12時30分下校
18	木	12時30分下校
19	金	終業式、大掃除、12時下校 定時退勤日
20	土	
21	日	
22	月	夏季学習指導開始
23	火	
24	水	
25	木	
26	金	夏季学習指導終了、定時退勤日
27	土	
28	日	
29	月	
30	火	
31	水	

## 【8月の行事予定】

8/29 始業式、大掃除



～職員より～

当たり前のことに目を向ける前任校から本校へ異動する際、尊敬する上司が一冊の本をくださいました。

「ありがとうの反対は何か。」

そんな質問から、この本は始まります。

著者は、「ありがとうの反対は『当たり前』だと綴っています。

今、私たちが目にしている光景や生活の中に、当たり前のことなんて、一つもない。

目の前にあるもの、目の前で起きていること、もちろん自分が今日生きていること、自分の体があることもすべて当たり前ではない。

奇跡の連続。そうすると今この瞬間があることは「ありがとう」という言葉でしか表せない。そして、日々の生活の中にある「当たり前」と思っていたことを、「幸せ」という言葉に置き換えてみると、周りを見渡せば「幸せ」であふれていることに気づく。そしたら、口から出てくる言葉は、自然と「ありがとう」になる。

心に残った1ページです。

日々の生活の中での「ありがとうセンサー」を高めるためにはどうすればよいのか。

私は、この本を読み、いつも上機嫌でいることを心がけようと思いました。上機嫌でいれば、小さい喜びに目を向けることができる。イラっとすることも笑えたり、幸せに感じられたりするのではないかと。もし、心に余裕がなくなりイライラしているなど感じた時は、自分がホッと一息つけて、「幸せだなあ。」と感じられることを取り入れ、自分の上機嫌を自分で作る。そうすれば、ありがとうと感じられることが増えるのではないかなと思っています。

毎日笑顔で過ごしたいと感じた時に、手に取りたいと思える一冊でした。

参考：阿川龍翔、『ありがとう大臣とポストの神様』、サンクチュアリ出版、2013年。

みどり担任